

## ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年10月2日

【2017年9月23日～2017年9月29日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドル、対円で下落しました。また、2年国債金利は1週間を通じてほぼ横ばいの動きとなりました。

北朝鮮問題による地政学リスクが一段と高まったことに加え、水力発電所の民営化にかかる入札結果が不調となったことで財政問題が懸念されたことから、週前半は債券・為替ともに軟調な推移となりました。

週後半に入ると、テメル大統領が景気刺激策を発表したことが好感されて、ブラジル・レアルは反発に転じましたが、週前半の下落幅を埋めるには至りませんでした。一方、債券につきましては、発表された基礎的財政収支の数字が市場予想よりも良かったことが、金利低下の要因となりました。

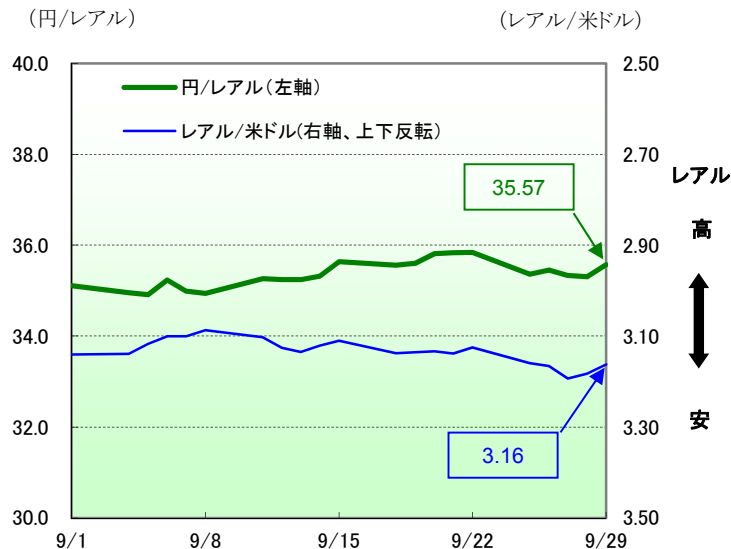
### 【2】今週の見通し

今週は、物価関連指標（IPCAインフレ率）が発表される予定となっています。市場予想は前月とほぼ同水準の前年比2%台半ばとなっており、この通りの数字が発表されれば、引き続き利下げサイクルが継続される見込みです。

一方、政治情勢につきましては、テメル大統領の2回目の訴追に関する審議が、今週から下院委員会で開始される予定です。最高裁判所での審理開始の可否に関する最終的な採決は10月下旬となる見込みで、それまでは社会保障改革法案の審議・採決が先送りされるものと想定しています。テメル大統領に関する採決は1回目同様に否決が見込まれていますが、今後の構造改革や財政再建の行方を占う上で、引き続き政治情勢には注目が集まります。

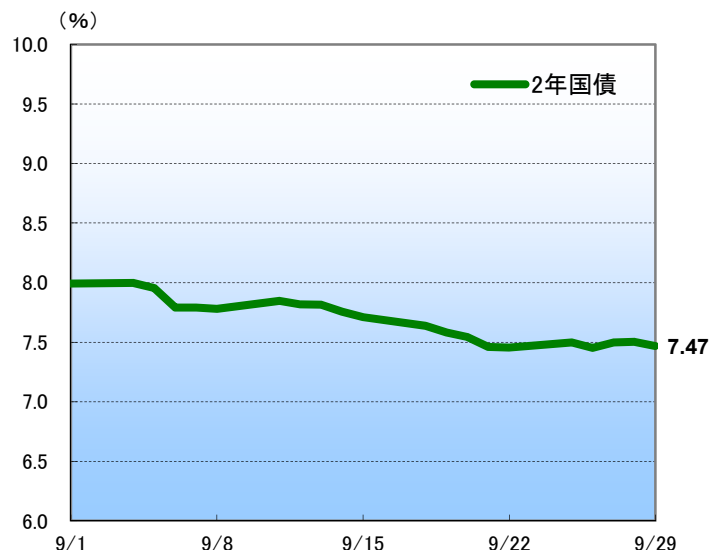
政府や議会が社会保障改革などの構造改革を着実に進める場合は、ブラジル経済に対する信認改善や利下げによる景気回復と相まって、レアルの下支えになると期待されます。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年9月1日～2017年9月29日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】(2017年9月1日～2017年9月29日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>